

## 第3回 志布志湾海岸保全対策検討協議会 議事概要

- ・開催日時：令和6年8月7日（水）13：30～15：00
- ・開催場所：東串良町役場（防災庁舎 対策本部室）
- ・出席委員：西委員，柴田委員，中川委員，下平委員，東委員，宮原委員，  
永野委員代理（別府建設課長），楠田委員，原崎委員，安藤委員，渡邊委員，  
小濱委員，黒鳥委員，久野委員，鍋田委員，福永委員  
※杉山委員，佐多委員は欠席

以下、各議題における主な意見（発言順）

### 1) 各事業主体による取組（令和6年度の事業実施状況について）

※各事業主体から配布資料に基づき説明

#### 楠田委員

- ・ 波見港の航路が土砂で埋まっているので砂が流入しないよう矢板を打つなどの対策を考えてもらいたい。
- ・ 柏原海岸の緩傾斜護岸両端の蛇籠が台風で流出し，漁網が破れ一時操業停止した。蛇籠もテトラポッドで囲んで流出しないよう対策をしてもらいたい。

#### 小濱委員

- ・ 波見港の埋塞について以前から話を伺っており，また要望も伺っている。  
構造物で物理的に砂を止めるのが一番効果的と考えており，その止め方については航路沿いが良いか法線が良いか等，構造物について昨年度からシミュレーションを含めた検討を行っている。  
以前は備蓄（会社）に浚渫の協力ももらっていたが，船の係留場所が変わったこと等により今は対応いただけてない。  
対策についてもどのようなことができるか考えてさせていただいている。  
その状況についても地元の説明していきたいと考えている。

#### 宮原委員

- ・ 大雨時の河川の水を見れば土砂そのものであり，河口にその土砂が溜まっている状況である。  
溜まった土砂を取って陸に上げるのではなく養浜として船に積んで沖合に入れてもらうのが，一番の得策でないかと考えている。

### 2) 志布志湾海岸の地形変化について

※事務局から配布資料に基づき説明

#### 西会長

- ・ 今後は総合的な土砂移動や土砂量を把握した上で適切な管理をしていくことが重要であることから，次の協議会には土砂量の変化について説明いただきたい。

#### 楠田委員

- ・ 柏原海岸の緩傾斜護岸両端の矢板の耐用年数は何年か。  
耐用年数がきているのであれば、もう一度矢板を打つなどの対策をしてほしい。

#### 事務局

- ・ 矢板は露出しており、錆や穴がある状態。  
致命的な被災を受ける前に、現場を確認しどのような対策が必要か検討したいと考えている。

#### 柴田委員

- ・ 志布志湾海岸の地形変化について、土砂収支をしっかりと整理した上で対策を立てていくのが重要。  
河川からの土砂供給や沿岸方向の土砂移動について、沿岸をブロック分けし、検討していくのが望ましい。

#### 中川委員

- ・ 汀線位置の変化について台風来襲前後の差分を評価すれば、高波の影響が海岸のどの場所に出やすいかなど、この沿岸の特徴をより示すことができるのではないかと。  
沖合の地形によって波向きが変化するので、深浅の平面分布で波が集中しやすい箇所を把握すると、より効率的な対策に結び付くと考える。

#### 事務局

- ・ 台風来襲前後の汀線変化の差分と沖合の地形について、いただいた意見をもとに検討していきたい。

#### 渡邊委員

- ・ ナウファスの観測開始以降、潮位の上昇傾向が見られる。今後、気候変動により外力が強大化することが懸念されている中で、波浪の影響に加えて、潮位上昇の影響をどのように評価したらよいか。

#### 柴田委員

- ・ 侵食についても、海面上昇の影響を考慮する必要があるが、まずは、高潮や台風、津波といった浸水への影響を把握してから、侵食への影響を整理すると良い。

#### 中川委員

- ・ 学会等では影響について検討されているが、海面上昇は一般的に年数ミリ上昇しているとされており、それに追随した地形変化をモニタリングするのが重要。

## 西会長

- ・ 防災の観点からは、津波や高潮の遡上高は今の海面上昇のレベルでは、構造物に大きく影響するほどではない。  
高波浪時に波が遡上する高さで、浜崖の位置が変化する点で潮位は重要。

## 東委員

- ・ 押切海岸の人工リーフの設置背後は、汀線後退が進行していないように感じた。  
一方で菱田川、田原川周辺は侵食しており、くにの松原キャンプ場周辺は、昔と比べると相当侵食が進行し、遠浅から急深な海岸になっている。  
人工リーフで侵食を防止する効果が期待できるなら、計画的に設置していくことは考えられないか。
- ・ 菱田川河口で毎年1万 m<sup>3</sup>程度砂を除去しているが、その砂を侵食している箇所に流用しても、再度流されるので、突堤などの構造物で砂の流出を防げないのか。

## 西会長

- ・ 人工リーフは景観に優れ、波を砕波させるが、人工リーフの裏側（陸側）は水位上昇していることが考えられる。海面上を高波が進行し浜に当たるため、背後地を守るという意味では人工リーフは要注意である。
- ・ 突堤で砂を止めることで、突堤の反対側では砂がなくなって侵食する。  
良い効果と悪い効果があるのでそれぞれを考えて対策しなければならない。
- ・ 菱田川河口の土砂の利用については有効的であるが、広大な砂浜に1万 m<sup>3</sup>投入しても目視でのモニタリングでは変化が分かりにくい。

## 東委員

- ・ 菱田川の土砂を投入したら少しでも侵食防止に効果的ではないかと考えている。
- ・ 田原川周辺の砂浜は海岸利用者が多く、人々が集う場所として維持していきたいことから砂浜の侵食を防止していきたいと考えている。

## 福永委員

- ・ 菱田川河口の砂と、川の上流側にある粒径の大きいものと組み合わせながら養浜を行えば、養浜材は移動しにくいと考えられる。
- ・ 恒久的対策として構造物について検討することが一つの課題であり、その検討のためには土砂収支の整理が必要となることから改めて協議会の場で議論させていただきたい。

## 楠田委員

- ・ 大崎の漁民は二艘引きでちりめんを取る業者であるため、人工リーフや消波ブロックを入れることは大きな問題になる。

- ・ 侵食箇所への土砂投入は賛成であるが、海中への投入は、水産業者にとっては非常に大きな痛手となる。柏原海岸の緩傾斜護岸周辺の浜が欠落しているところに、陸からダンプで砂を持ってくることは、なにも差し支えない。

#### 西会長

- ・ 志布志湾海岸には水産業の方や林業、農業の方もいる。浜幅が広いと松林や農地の保全に有利であり、浜幅が広いということはどの産業にとっても重要なこと。

### 3) 試行的な養浜について

※事務局から配布資料に基づき説明

#### 柴田委員

- ・ 試行的に養浜を行い、その上で継続的に養浜に取り組んでいくということに賛成する。  
その上で、今回の試験養浜の効果・目的をしっかりと整理しながら、モニタリングするのが重要。

#### 中川委員

- ・ 基本的にこの海域に流入してくる土砂を養浜材に使うということで、大事な資源なので積極的に利用していくということに賛同する。  
今後、養浜量が気になる場所であり、どの地点の土砂がどれくらい使えるのか今後検討していただきたい。
- ・ 粒度分布に関して、仮にシルト分が多少含まれていたとしても波に洗われて分級され、現地砂と馴染んでいく。  
養浜は投入したままの状態が続くわけではないということを踏まえて、モニタリングしていけばよいと考える。

#### 西会長

- ・ 養浜場所は後浜に投入することとしているが、これは波が頻繁に当たる前浜に投入するとすぐに養浜した砂が移動してしまう可能性があることと、高波浪時にだけ波が当たることで、関係者の方が直接影響を受けにくい高波浪時に砂の分級が進むことを考えて、砂を置く場所を提案している。
- ・ ここにいる関係機関、組織、水産業の方を含めて皆様の了解があって、試験養浜をすることができる。  
意見などがなければ、試行的に養浜を進めたいと考える。  
《委員から異論なし》
- ・ 養浜について同意していただけたということで、今年度から試行的に実施する。

#### 4) 今後の進め方

##### 事務局

- ・ 試行的な養浜の進め方について、皆様の同意を得ることができましたので、本年度より試行的に養浜を実施する。

今後、養浜を実施していくには、養浜材の十分な量の確保が必要であり、そのために引き続き、関係機関と調整し、養浜材の調達についても検討していきたいと考えている。

##### 福永委員

- ・ 本日の協議会の中で、土砂収支の検討・整理についての意見があり、これは今後の長期に渡っての課題の一つとなる。

海岸侵食対策は流域治水の中の総合土砂管理に属すると考えており、協議会のあらゆる関係者で知恵やノウハウを出し合いながら進めていきたいと考えている。

##### 西会長

- ・ 次回の協議会では、試験的な養浜を行って、そのモニタリング結果を見たいので、第4回協議会は2、3月に開催したいと考えている。

(以上)